

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 9 日現在

機関番号：32690  
 研究種目：基盤研究(C) (一般)  
 研究期間：2013～2015  
 課題番号：25370382  
 研究課題名(和文) ナボコフのロシア語韻文作品の研究 エミグレ表象とモダニズム詩人としての位置づけ  
  
 研究課題名(英文) Reserch on the Russian Verse written by Vladimir Nabokov-- about the representation of Emigre and the position of a Russian-Modernist.  
  
 研究代表者  
 寒河江 光徳(Mitsunori, Sagae)  
  
 創価大学・文学部・准教授  
  
 研究者番号：60440228  
  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：ウラジーミル・ナボコフに関連する研究資料を収集するために3年間、アメリカのボストン、パリのスラヴ研究所、サンクト・ペテルブルグのロシア文学研究所、および、ニューヨーク公立図書館に行き、現地でアーカイヴ(直筆原稿)を調査した。その上で、ロシア語で書かれた韻文作品を日本語に翻訳し、ポスト・コロニアリズムの視点から「亡命者」および祖国「ロシア」についての表象について研究した。研究成果については、創価大学通信教育部発刊の教科書『文学～文学研究と文学理論への手引き』を発売し、東洋哲学研究所紀要、日本ナボコフ協会機関誌に成果を発表した。

研究成果の概要(英文)：I have been to the Institute of Slave in Paris, Institute of Russian Literature at Saint-Petersburg, and New York Public Library to investigate the Archive Collection. And at the same time I am trying to translate Russian Poetry written by Vladimir Nabokov into Japanese, and investigate them from the point of Post-Colonialism to make out images of Emigre and Russia as a homeland. I published three articles about Vladimir Nabokov, and wrote on textbook.

研究分野：ロシア文学

キーワード：ポスト・コロニアリズム モダニズム ロシア文学

## 1. 研究開始当初の背景

英語散文作家、あるいは、ロシア語散文作家として高名な V.ナボコフのロシア語詩人としての研究はまだ真剣になされていない。ロシア文学史における位置づけもあいまいである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的はロシア語詩人ウラジーミル・ナボコフのロシア文学史的な地位を明らかにすることである。ナボコフ研究は、ロシア語時代と英語時代、散文と韻文作品に分けられるが、そのうち、ロシア語時代に書かれた韻文テキストの研究はほとんどなされていない。本研究は、ナボコフのロシア語時代に書かれた韻文テキストの翻訳・分析を行い、アメリカ時代の英語作品、ロシア語時代の散文作品を含めたナボコフ作品全体に覗える諸要素(ロシア・フォルマリズムがいう「文学性」)を、ロシア語時代の韻文テキストに見出し、その淵源をロシア・モダニズムの諸作品に求める。その上で、ロシア語時代に書かれた韻文テキストに見受けられるエミグレ表象についてポスト・コロニアル視点から分析を試み、他の亡命詩人にテキストと比較考察する。1) 明視性と記憶をめぐって

ある時画鋏を籐の椅子の上に置いてみたら、家庭教師が巨大な尻を下ろすと短いミシミシという音をたてたのは、回想の中では、太陽の光や庭のざわめき、それにむき出しの膝にとまって赤くなった腹部をうれしそうに持ち上げている蚊とひとしくなっている。(『ディフェンス』,1999年,河出書房,P.14.若島正訳参照),描写対象が細部から細部へと漸次的に移行する。

### (2) 亡命詩人としての政治的言説(ディスクール)とエミグレ表象

ナボコフの政治的立場は祖父、父から受け継がれた西欧主義的立場であり、立憲民主党に近いものであった。ポリシェヴィズムの台頭によって亡命を余儀なくされたナボコフにとって亡命とは西欧主義的立場からスラヴ主義的あるいは人民主義的ロシアを他者化(Othering)する行為に他ならなかった。ナボコフのテキストには、記憶の中に閉ざされた少年時代の祖国へのイメージとは別に、ソヴィエトの体制下となり、もはや別の国になった祖国(ロシア)に対するアンビヴァレント(両面価値的)な感情が作品の随所ににじみ出ている。

### (3) モダニズム詩人としての位置づけ 言

## 語実験(頭語反復,同音反復など)的要素

Больше всего то, что с понедельника он будет Лужиным. Его отец,настоящий Лужин, пожилой Лужин, Лужин, писавший книги, -- вышел от него...  
Защита Лужина , В.Набоков.Собрание сочинение.Т.2.С.5.

Стратегия вдохновения и тактика ума, плоть поэзии и призрак прозрачной прозы. Дар , В.Набоков.Собрание сочинение.Т.3.С.10.(靈感の戦略と理性の戦術,詩の肉体と透きとおった散文の幻影)『賜物』.たとえばバリモントの Близко буря. В берег бьется /Чуждый чарам чёрный чёлн などの音韻反復と比較するとどうなるか。

### (4) 現代文芸理論(ロシア・フォルマリスト)との関係

ロシア・フォルマリストの唱える異化,明視性について.ナボコフの作品を異化の視点で分析することも可能だが,

『ロリータ』でいう視覚的記憶の問題では、むしろイメージの視覚的復元を重視している点で、フォルマリストの考えとは異なっている。

### (5) 翻訳者・文芸批評家、あるいは教育者として 文学的源流の探究

ナボコフがコーネル大学で行った講義録『ロシア文学講義』、『ヨーロッパ文学講義』にも、先の政治的言説(ディスクール),文芸理論を使ったテキスト解釈とは違った文学研究に対する独自のスタンスが窺える。方法論的アプローチと比較して何が言えるか。ナボコフがゴーゴリ論を述べる時、たとえばエイヘンバウムのような文芸学者とどのようなアプローチの違いが見出させるか。また、それがナボコフ作品の解釈にあたるヒントとは。

### (6) ロシア・モダニズムに影響を与えた欧米詩人の作品との比較研究 ポー,ボードレルなど

頭韻 c の音による共感覚の提示,“Всё лето.быстрое дачное лето, состоявшее в одном из трёх запахов:сирень, сенокос, сухие листья...” В.Набоков. Защита Лужина ,Собрание сочинение в .1990, .2. .5.

「ある建物の色は、いまにも口の中がいやな味を、たとえば、オートミールのような、いやハルヴァのような味を思い

出させそうだった。」(『賜物』より。)ボードレー尔的な共感覚が現出する。バリモントやブリュソフといった象徴派の作品に特徴的。

#### (7) ナボコフの英語作品との比較

たとえば、ナボコフ本人が翻訳を手がけた代表作品『ロリータ』のロシア語版では、原作の英語にはないアナグラムが見受けられる。英文では見つけられなかったモダニズム的な仕掛けが散見する。(Гумберт Гумберт умер в тюрьме. Хан-Парт・ハンパートは牢獄で死んだ。)

### 3. 研究の方法

資料収集としてはサンクトペテルブルクの科学アカデミー文学研究所にある手稿を可能な限り入手し、文献学的な問題を吟味する。亡命詩人たちが参加した雑誌の初版のマイクロフィルム等の資料を可能な限り入手し、すでに出版されている詩集のテキストと照合していく。現在リプリントで再発行されている「現代雑誌」はもとよりホダセヴィチが中心となって発刊した「数」について復元版を収集する。その他、ハーヴァード大学図書館を利用し、アメリカ時代のナボコフ研究資料についても可能な限り入手していく。その他の亡命詩人(第1世代から第3世代)のテキスト、そして、ソヴィエト国内に踏みとどまった詩人のテキストについてもエミグレ表象、あるいは祖国イメージについては分析し、ナボコフのテキストにおけるエミグレ表象や祖国イメージとも比較考察を行う。ロシア・モダニズム詩人と欧米詩人との間テキスト性についても考察する。ナボコフが渡米時身元引き受け人として受け入れたミハイル・カルポーヴィチによると、スラヴ主義、西欧主義といったロシア・インテリゲンツィアの2大潮流は、20世紀に入り社会主義革命を必然とするグループと西欧的民主化を推進するグループに流れた。ロシアで司法大臣を務めたドミトリー・ナボコフを祖父に持ち、立憲民主党の創始者の一人であったウラジーミル・ナボコフを父に持つ、作家ナボコフの家系がロシアにおける西欧派の流れを汲んでいることは言うまでもない。本研究では、ポスト・コロニアリズムにおける「他者化」(Othering)という視点をを用いながら、西欧主義者ナボコフが、非・西欧化していくロシア(祖国)を他者化していく様子をナボコフの韻文作品の中に認めることができる。

### 4. 研究成果

ウラジーミル・ナボコフのロシア・モダニズムの詩人としての位置づけとして、モダニズム詩人との影響を関係を考察するに、ロシ

ア象徴主義の影響を受けながらも、むしろ、後代のアクメイズムの詩人(アンナ・アフマートヴァやレフ・グミリョフなど)に対してよりシンパシーを募らせていたことがわかった。これらの研究成果については、今後論文等でさらに発表していく予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

寒河江 光徳, 2013年3月31日

ウラジーミル・ナボコフの作品における「ずれ」の美学 『賜物』, 『透明な対象』を中心に脱構築的読解を試みる, 『創価大学ロシア・スラヴ論集』第6号, 創価大学ロシア・スラヴ学会, 2013, P.3-24.

寒河江 光徳, V. ナボコフの作品における円環構造とシンメトリーにまつわる形象のパターンについて 殺意の前兆、犬、カーブ、鏡そして殺人—小説『ロリータ』および、2つの映画『ロリータ』から解き明かす試み, 『東洋哲学研究所紀要』, 第30号, 2014, P.103-126, 査読有。

寒河江 光徳, 2015年12月

『マーシェンカ』(ウラジーミル・ナボコフ)におけるテレパシーの思想と「光の明滅」のイメージについて—ナボコフの『アンナ・カレーニン』(レオ・トルストイ)論との比較考察— 『東洋哲学研究所紀要』, 第31号, 2015, P.103-126, 査読有。

〔学会発表〕(計4件)

1. 寒河江 光徳, 日本ロシア文学会第63回、ナボコフの作品の脱構築的解釈の試み、『賜物』, 『透明な対象』を中心に、東京大学, 2013年11月2、3日。

2. 寒河江 光徳, 「20世紀前半の在外ロシア文化研究会」2014年秋季研究会、Translation or Transfiguration? 変容する『ロリータ』のイメージ、北海道大学スラヴ研究センター, 2014年9月13日。

3. 司会・講師 後藤 篤、寒河江 光徳、メドロック 皆尾 麻弥、毛利 公美、深沢 明利、日本ナボコフ協会 *Transitional Nabokov* (2009) から見る 2000 年代以降の推移、南山大学、2014 年 11 月 29 日。

4. 報告者：若島正（座長）、Richard Smith、三浦笙子、中田晶子、後藤篤、寒河江光徳、メドロック麻弥日本ナボコフ協会、第 2 部 ワークショップ (1 号館 3 階 306 教室 15:00-17:30) Ada Part 1, Chapter 38 を読む 京都『アーダ』読書会、佛教大学、2015 年 11 月 21 日。

〔図書〕(計 1 件)

1. 寒河江 光徳、

文学～文芸批評と文学研究への手引き～、創価大学通信教育学部、P.1-266、2015 年 12 月 24 日、

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寒河江 光徳 (Mitsunori Sagae)  
創価大学・文学部・准教授

研究者番号：60440228

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：